

## ■研究授業 4

1 研究主題           メッセージ・アート ～思いを込めよう・伝えよう～

2 提案者           江東区立第二南砂中学校 教諭 楠本 玲子

### 3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

◇自分の思いを作品に込めて、相手に伝える。

我々は生活の中で、ものごとを“伝えることの大切さ”を実感し、その必要性を再認識することが多くあるだろう。お互いの意思を伝達するからこそ、そこに関係が築かれ、相互理解（伝える・受けとめる）が生まれる。それに対して、自分の思いや意思を伝えなければ、伝えたいものや伝えなければいけないものを、相手に伝えられない、受けとめてもらえないということになってしまう。

美術においても同様である。自分なりの思いや意思を作品に込めて、相手に伝えてこそ表現が成り立ち、お互いの表現を認め合う関係が生まれる。単に“作品を作る”だけの目的とは異なり、伝える対象（自分や相手）がいて、そこに自分の思いを発信するという目的があってはじめて、造形活動の価値が見出されるのではないだろうか。

“表現できた”“伝えることができた”という達成感を一人ひとりに味わわせ、ものごとに取り組むための自信へとつなげていきたい。そして、表現することの喜びを与えることで、子どもたちの自己実現を目ざしたい。さらに、お互いのよさを認め合うことで、よりよい人間関係を築いていくことのできる豊かな人間性を、美術科として育み、その役割を果たしていきたい。

◇教材の視点

○制作における課題

- ・具体的なものやかたちを絵に表すことは、観察力や描写力などが伴うため、個人差が生じることが予想される。
- ・描く（表現する）ことに、抵抗感や自信がないなどの苦手意識のある生徒は、そのことが意欲の低下の要因となっていることがある。
- ・個々の表現を引き出し、尊重することができて、かつ、それぞれが興味をもって取り組むことのできる制作であること。

○課題に対するアプローチ

- ・“一人一人の表現を生かすこと” → “全員が表現できる（取り組めること）” を条件とする。
- ・本題材では、ことばを①コミュニケーションツールと②描画ツールとして用いる。  
例) ①ありがとう→言語、情報内容など  
      ②ありがとう→あ、り、が、と、う 文字(記号)として画面構成のための描画ツールとして用いる。  
※②に関しては、視覚的には記号の羅列にすぎないが、ここで用いる文字は、言葉を説明するために字を書くのではなく、言葉から得るイメージや感情を少しでも膨らませて、作品に取り入れさせるために描くものである。
- ・制作の中できっかけ（手立て）と単純なルールを与えることで、表現方法の一部に統一性をもたせる。全員を同じスタートラインに立たせることで、イメージすることや描くことに抵抗を感じる生徒も、取り組みやすい題材としてとらえることができるのではないかと考えた。

### 4 学習の目標

- (1) 自分なりの表現を大切にしながら制作に取り組む。
- (2) 言葉に対する自分の思いや感情を、色と形で工夫して表現する。
- (3) 完成した作品を鑑賞して、自分の思いや表現意図を説明して伝える。

### 5 評価の観点

《美術への関心・意欲・態度》 言葉へのイメージを大切に、表現することに関心を持ち、意欲的に制作に取り組むことができる。

《発想や構想の能力》 言葉へのイメージを、自分なりに色と形で工夫して表現することができる。

《創造的な技能》 言葉から感じ取ることのできるイメージを、色と形で構成することができる。

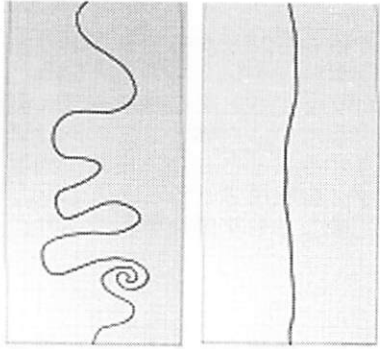
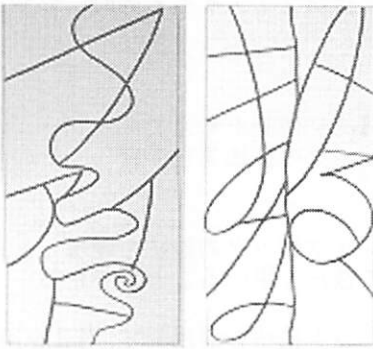
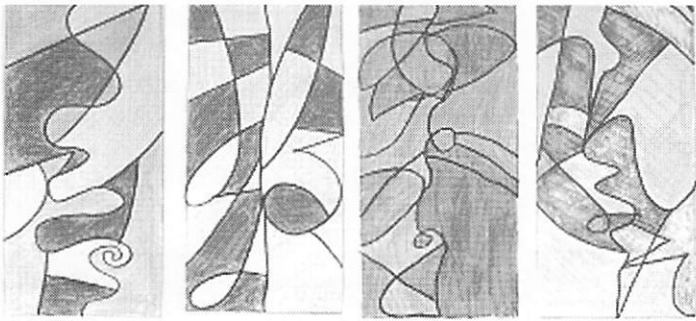
《鑑賞の能力》 自分の表現意図を説明して、他の作品のよさを感じることができる。

### 6 学習活動（全3時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 画用紙（10cm×20cmの枠をとり、10cmの辺の中心には点を打っておく。）  
サインペン、ワークシート、色彩カード
- ② 道具 絵の具、筆、パレット、筆洗

(2) 展開

学習の流れ	学習活動	指導上の留意点
導入 (1時間)	<p>○ワークシートの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のもつ役割について考えてみる。</li> <li>・“ことば”の中から、励ます言葉、感謝する言葉、元気づける言葉、労る言葉など、人に伝えたい言葉を一つ選び、用紙の左上の欄に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばへの関心を高めさせる。</li> <li>・<u>相手の立場に立って</u>、自分が人に伝えたい言葉について考えさせる。</li> <li>・生活の中で、言葉によって自分が感じたことや、影響を受けたことなどにも着目させる。</li> </ul>
展開 (1時間) 〈本時〉	<p>○線を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙を縦型に置き、上下に打たれた点同士を任意の一本線で結ぶ。</li> <li>・*一斉に線を描く</li> <li>→<u>思いを込めて10秒間で</u></li> </ul>  <p>(例1-1) (例2-1)</p> <p>○ことばを描く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙に、選んだ言葉一語を一文字ずつ縦に描いていく。</li> <li>・それぞれの文字の一面の始めと終わりが、辺上もしくは線上で接するように描く。</li> </ul>  <p>(例1-2) (例2-2)</p> <p>○ことばに色をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばからイメージする色を三色選ぶ。</li> <li>・分割された面を、一面一色で塗り分ける。</li> </ul>  <p>(例1-3 ファイト) (例2-3 負けるな) (例3 ありがとう) (例4 がんばれ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばへの思いを心でイメージすることを心がけさせる。</li> <li>・なかなか描き出せない生徒には、形にとらわれることなく、思いのままに手を動かしていくように促す。</li> <li>・実演して描画手順を示す。</li> <li>・本来の文字の形にとらわれてしまいがちだが、ここでは文字をそのまま描くのではなく、自分の思いを大切にして、自由に変形させアレンジして描かせる。</li> <li>・ことばへの<u>思いを大切に</u>しながら、自分がイメージする色を選択して、着色させる。</li> <li>・色相環や色の性質など、これまでに学習した内容を確認させて、配色を工夫させる。</li> </ul>
まとめ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品を鑑賞する。</li> <li>・ことばへの思いや表現意図を説明しながら、感想を述べ合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品を鑑賞させ、自分の思いを表現できたか、どのような印象を得られたかなどを振り返らせる。</li> </ul>